

豊かな人間関係を高める「仲よし活動」の実践

足利市立毛野南小学校 臺 武士

1. 本校の研究課題と仲よし活動との関連

本校は昭和56・57年の2年間、栃木県教育委員会より特別活動の実験学校の指定を受け、児童活動（学級会活動・児童会活動・クラブ活動）全般についての研究を進めて来ました。

「自主的活動を高める特別活動のあり方」をメインテーマとし、「集団の一員としての自覚を育てる活動」をサブテーマに据え、第1年次、「各活動の場を確保し、活動の機会、活動の時間を十分与えることにより、集団に対する自覚を育てることができる。」という仮説を設定し、その検証の場を各活動の場に求めて研究を進め、第2年次はさらに活動意欲を高めるために「各活動の内容を明確にし、活動の見通しをもたせることによって、成員の活動意欲を高めることができる。その結果、集団の一員としての自覚は育つであろう。」という仮説のもとに学級会活動・児童会活動・クラブ活動等、児童活動の検証の場を明確にし、全職員が共通理解に努力し、その指導に当たって来ました。

第2年次では学校行事・学級指導等特別活動全内容でテーマに直接結びつくものを選択して研究に加えました。また、発展的活動として、仲よし活動・部活動についても、自主的活動の育成のため力を入れて指導することにしました。

校内における様々な集団活動の場を求め、自ら進んでその集団に所属するよろこびと、集団への寄与に対する関心を高めさせることが特別活動のねらいにも合うものであります。

2 昭和57年度 仲よし活動実施計画

(1) ねらい

- 学校裁量の時間の効果的活用
- 特別活動の発展の場の設定
- 核家族化による諸問題の解決
- より楽しい学校生活をめざして

(2) 活動時間

- a) 業間（さわやかタイム）火・金曜日……………各15分
- b) 特設（みどりの時間）第1・第3 水曜日 第5校時

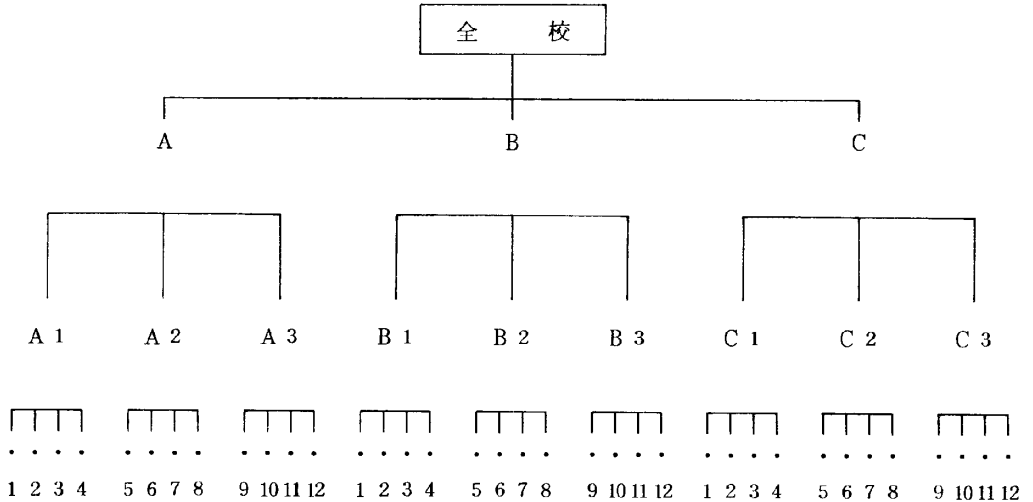
(3) 活動内容（予定）

- ア. 新入生と新6年生との交流（一日入学、入学式の「きょうだい」活動）
- イ. 名刺交換会（「はじめまして」の集い）
- ウ. 遊び（ゲーム・軽スポーツ）
- エ. ダンス
- オ. 運動会（仲よしリレー、応援合戦 得点争い）
- カ. 集会（七夕まつり、お別れ、等児童会の集会を仲よし活動の組織で行う。）
- キ. 清掃活動（月～金曜日、土曜日は学級ごと）
- ク. その他（ねらい達成のための活動）

(4) 組織・運営

- ア. 6年生を基準に、大集団を3つとする。
- イ. 中集団9つとし、さらに、小集団を36とする。
- ウ. 小集団は14～15名とする。

組織表



- エ. 小集団の各学級配当は別表の通り
(原則として、3学級学年は1組をA、2組をB、3組をCとし、2学級学年は各学級内をA、B、Cに均等配分する。)
- オ. 小、中、大集団に班長、ブロック長、団長を置く。
(児童会組織との関連を配慮する。)
- カ. 職員は2つの小集団に1名を置き、それぞれのブロックにも代表者を置き、それぞれの集団の指導・世話をする。
- キ. 小集団の所属については1年間を原則とするが、できるだけ継続させたい。そのことによって活動の改善や安定した人間関係と責任あるリーダーの育成を期す。
- ク. 大集団の色分けと小集団のニックネームの区分
A集団 ピンク(植物名)
B集団 クリーム(動物名)
C集団 黄みどり(自然現象)
- ケ. 小集団ごとにグループ名、シンボルマークを入れた小旗を用意し、集会活動の時携行する。

A 集団

グループネーム

小 集 団	性 別	一 年		二 年		三 年			四 年			五 年		六 年			特 性 別 学 計	合 計
		1	2	1	2	1	2	3	1	2	3	1	2	1	2	3		
1	男	1		1		2			1			1		2			8	15
	女	1		2		1			1			1		1			7	
2	男	1		1		1			2			1		1			7	15
	女	1		1		1			2			1		2			8	
3	男	1		1		2			1			1		1			7	15
	女	1		1		1			2			2		1			8	
4	男	1		1		1			2			1		2			8	15
	女	1		1		1			1			1		2			7	
5	男	1		1		1			2			1		2			8	15
	女	2		1		1			1			1		1			7	
6	男	1		1		2			1			2		1			8	15
	女	2		1		1			1			1		1			7	
7	男		1		1	2			2				1	1			8	15
	女		1		2	1			1				1	1			7	
8	男		1		1	1			2				1	1			7	14
	女		1		1	1			1				1	2			7	
9	男		1		1	2			2				1	1			8	15
	女		1		1	1			2				1	1			7	
10	男		1		1	1			2				2	1			8	15
	女		1		1	1			1				1	2			7	
11	男		1		1	2			1				1	2			8	14
	女		1		1	1			1				1	1			6	
12	男		1		1	2			2				1	1			8	15
	女		2		1	1			1				1	1			7	

A (植 物)

- | | |
|----------|-------------|
| 1. ポ プ ラ | 7. ひまわり |
| 2. タンポポ | 8. ば ら |
| 3. ラッパ水仙 | 9. ゆ り |
| 4. も み じ | 10. キ キ ョ ウ |
| 5. タ ケ | 11. ちゅうりっぷ |
| 6. すずらん | 12. す み れ |

B (動 物)

- | | |
|----------|-------------|
| 1. ね ず み | 7. チ ー タ ー |
| 2. り す | 8. し か |
| 3. 犬 | 9. ヒ ョ ウ |
| 4. た ぬ き | 10. ペ ン ギ ン |
| 5. く ま | 11. キ ッ ネ |
| 6. ト ラ | 12. ら い お ん |

C (自然現象)

- | | |
|----------|-------------|
| 1. 太 陽 | 7. う み |
| 2. ハリケーン | 8. 樹 氷 |
| 3. に じ | 9. ル ビ ー |
| 4. 雪 | 10. な が れ 星 |
| 5. 彗 星 | 11. い な づ ま |
| 6. オーロラ | 12. 青 空 |

B・C 集団省略

3. 実践記録

(1) きょうだい活動

ア. 一日入学“きょうだい活動”実施計画

S 57・2・18

1 目 的

- (1) 新一年生の学校に対する希望を育て、未知の生活への不安を取り除き、新学年への期待をもたせる。
- (2) 新6年生に最上級生としての自覚を持たせ、よりよい学校生活の創造のための意欲を高める。
- (3) 仲よし活動のねらいを達成するために新1年生と新6年生との交流を行う。

2 日 時 昭和57年2月27日(土) 午前10時50分～11時50分

3 参加者 (1) 入学予定児 (2) 現5年生 (3) 5年担任

4 活動内容

<現5年生>

- 1) 新1年生とのきょうだい決定(原則として同性、マンツーマン)
- 2) 1日入学の案内の手紙とワッペン(2枚)をつくる。
- 3) 新1年生宅へとどける。
- 4) 当日教室で対面し、生活指導(呼名・返事・手伝い・歌のけいこ)の後、校舎内を案内する。
- 5) 父母と帰る時見送る。

<新1年生>

- 1) 手紙をもらい“お兄さん”“お姉さん”の名前を知る。
- 2) 当日胸にワッペンをつけて登校する。
- 3) 当日、教室・校内見学の世話をうける。
- 4) 帰る時、お父さん、お母さんに“お兄さん・お姉さん”を知らせる。

<学 校>

- 1) “きょうだい活動”についての説明書と家庭での理解について書面で知らせる。
- 2) 当日の様子を記録する。(1)父母・新1年生の声 (2)スナップ写真
- 3) 当日、諸連絡の中で“仲よし活動”についての説明をする。

5 当日までの予定

2. 18(木) 原案作成
2. 20(金) 原案提示
2. 20(土) 原案検討・承認・きょうだい決定
2. 21(日) 手紙・ワッペン作り
2. 22(月) 手紙・ワッペン点検
2. 23(火) } 手紙を届ける
2. 24(水) }
2. 25(木)
2. 26(金) 夜電話で明日ワッペンをつけてくるように連絡
2. 27(土) 当日活動
2. 28(日)
3. 1(月) 反省と感想文を書く。
3. 2(火) 感想文提出



6 そ の 他

- ・ 手紙、ワッペン等の用紙は係(臺、他が用意する。
- ・ 手紙の内容は、(1)氏名 (2)現クラス名 (3)特技的なもの (4)すきなたべもの (5)学校のようす (6)励ましのことば (7)お父さん、お母さんへのことば
- ・ ワッペンについては配布された白ボール紙を使い、イラストや張り布(紙)などで仕上げる。縦わりグループのニックネームが決定していないので適当なネームを考えてよい。
- ・ ワッペンの形は自由とするがあまり小さくならないようにする。
- ・ くわしいことや準備については5年の担任と係で行い、必要に応じて全職員に連絡する。

「大川雅弘君へ」

五年一組 鴛田裕樹

こんにちは、ぼくは、鴛田裕樹です。大川君のお兄さんです。大川君のとくいなものは、なんですか。ぼくのとくいなものは、プラモデルを作ることです。

プラモデルは、つくるときはたいへんだけれど、おもしろいです。大川君も、プラモデルがすきですか。

ぼくのすきなたべものは、ステーキです。くだものでは、メロン、グレープフルーツ、ぶどう、イチゴ、といういろいろです。

学校では、こんなたのしいことがあります。それは、プールや、いろいろなしゅうかいです。しゅうかいでは、えんにちしゅうかいという、じぶんたちでつくったものを、うったり、かったりするしゅうかいです。もうひとつは、たこあげしゅうかいというしゅうかいです。それは、じぶんで作った、たこを、かわのどてで、あげます。

こんなに、たのしいことの、いっぱい、がっこうですから、たのしみなきもちでがっこうへ、きてください。そして、がっこうでいっしょうけんめいばんきょうをし、たくさんのともだちを、つくってください。一日にゆうがくの日には、ワッペンをしてきてください。

お父さま、お母さまへ

ぼくは、責任をもって大川君の、めんどうをみますので、しんぱいなさらずに大川君をとっこうさせてください。

五年一組 鴛田裕樹
手伝い 小林謙二

渡辺里英子ちゃんへ

五年三組 鴛田真美

はじめまして、里英子ちゃん。わたしは、いちねんかん里英子ちゃんを、お世話するときたまみです。

わたしは、5ねん3くみです。3くみはとてもげんきがよく、あかるいひとたちばかりです。

わたしが、里英子ちゃんのおねえさんになって、じまんできるのは、エレクトーンと、しゃかいのばんきょうです。わからないことがあったらいつでもきいてね。

里英子ちゃんのすきなたべものはなにか？ わたしは、ベロコンエッグとマスタメロンがすきです。

里英子ちゃんのくるがっこうは、あたらしいきれいながっこうです。せつびはととのっているし、はるとあきには、たのしいえんそくがあります。えんにちしゅうかいや、うんどうかい、そのほかいろいろなたのしいぎょうじがあります。

里英子ちゃん、がっこうはとてもたのしいところです。どうぶには、ワッペンをつけてかならずきてね!!

ようちえん、または、ほいくえんのともだちと、わかれてもがっこうで、たくさんのともだちができます。

一にちにゆうがくには、かならずきてね!!

お父さま、お母さまへ

私が一年間里英子ちゃんのお世話をする鴛田真美です。里英子ちゃんのご入学おめでとうございます。

学校には、私がいいますので安心して里英子ちゃんをつれてきて下さい。土曜に学校へくる時、ワッペンを忘れずにつけてきて下さい。(ワッペンをつけないと、行きちがいや、迷子になるかもしれないので)

では里英子ちゃん、どうぶにがっこうであおうね!

(2) 仲よし活動 “名刺交換の集い”

S 57・4・12

1 目 的

1年間の活動のスタートを印象づけ、出会いの意義を知り、仲よく協力し合う意欲を高める。
互いに名前を知り合いグループの所属感と仲間意識を強めるため、名刺交換を行う。

2 日 時 昭和57年4月16日(金) 第2校時

3 場 所 校 庭(雨天の場合カッポ内) ○印 大集団担当代表者

A 集団 バックネット前(体育館) ○大竹(と)

B 集団 体育小屋前(アッセンブリホール) ○真尾

C 集団 ジャングルジム前(会議室) ○岡崎

4 内 容(順序)

1. 各集団ごとに集合する。(1~12グループ 1列縦隊)
2. 各集団の担当者の紹介(チーフが行う)
3. 小グループごとに分かれて次の活動をする。
 - ・名刺の交換をする。 A(ピンク) B(クリーム) C(きみどり)
 - ・グループの名前を決める。 A(植物名) B(動物名) C(自然現象)
 - 決定したところから一覧表に記入
 - ・グループの旗や歌をつくることを知らせ意見を聞く。
 - ・掃除のことについて
4. 担当の先生の話を書く。(2グループ合同)

名刺の表

裏

山 本 一 郎	ぼくは「 どうぞよろしく 」をがんばります。
二年 一組 29	
[A - (1) - 5]	

- 住 所 } 班長が記入
- 電 話 }

班長は1,2年生分を記入し、3年生以上は、班長さんの書いたものを見て、1,2年生分を書く。

↑ 大集団

↑ 1/6

← 班長が記入

第1グループ

5. 各グループとも1揃を担当教師に提出し、アッセンブリ・ボールに掲示する。
昭和58年度は担当教師も名刺を作り、配布交換する。

(3) 仲よし活動 (さわやかタイム・みどりの時間)

(ア)ダンス

- ビビデバビデ・ブー
- ハッピーマンボ
- はっとりくん音頭
- ジェンカ
- 野原で手をたたけ
- 楽しいね
- 南の島のハメハメハ大王 等

(イ)軽スポーツ

- ハンド・ベースボール
- バドミントン
- ドッジ・ボール
- バスケット・ゴールあそび
- なわとび 等

(ウ)あそび

- 手ぬぐいおとし
- 陣とり
- ドロジン
- 鬼ごっこ
- ジャンケンあそび
- しりとり
- だるまさん, ころがし
- たかおに
- はないちもんめ
- かごめかごめ
- ひょうたんおに
- へびおに
- あぶくたつたにいたつた
- コインかくし
- 王様ゲーム
- その他

各グループのリーダーは、男女差、学年差を十分考え、全員が参加して楽しくできるように方法を工夫して行っていた。例えば 4月ごろは ほとんどのグループが ドッジ・ボールをはじめたが能力差に気づき 4年生以上は利き手で投げてはいけないとか、投げる距離を考えた上でゆるいボールを投げるなどしていた。それでも能力差における問題は解決しないのでころがしドッジ・ボールにしたりしていたが、いつの間にかドッジ・ボールはなくなってしまった。

各活動のオープニングはテーマ音楽で集まり、(各小集団の小旗を中心に)ダンスの曲によって活動が始まる。ダンスが終わると、バック・ミュージック(季節に合ったもの)であそびや軽スポーツに入る。そして終る時にはまたテーマ音楽が流れ、各集団ごとに校庭を去って行く。

開始から終了までアナウンスはない。15分を区分し、音楽はテープ録音で行うため放送の係もない というシステムになっている。

集団への所属感が高まり、活動への期待がもてるようになると、集合時間も短縮し、テーマ音楽内にほとんどの者が集合できるようになる。

ダンスもリーダーに事前指導し、リーダーが各自分のメンバーに指導・世話をすることによって行うというかたちをとって行ってきた。ダンスは活動の一部であり、ダンスがねらいではないということである。見せるためのダンス、踊る喜びを味わい、正しい踊りを身につけるなど考えられるがここでねらっているのは リズムに合わせて身体活動ができ、各集団で和やかな雰囲気がつくり出せればよいということである。したがって低学年の児童は上学年の踊りを見てまねるという程度でよいという原則的なおさえをした。

ゲームについては各グループで次回の予定を話し合い、4年生、5年生が中心になってリードしたりすることもあった。その時は6年生が1、2年生の手をとって要領を教えたりすることができるので好評だった。いつもリーダーが中心ということではなく内容によって中心になる者をきめるというグループに任せるという方向づけをしたことも結果としてはよかったという反省があった。

集団から教室へ分かれる時「バイ・バイ」「またね」とか「ありがとう」という言葉が1、2年生の口から出る様になったこともすばらしいことである。



(4) お別れ集会

○ねらい

仲よし活動やさまざまな集会などでお世話になった6年生の卒業を祝福するとともに、新しい生活への励ましをする。

○期日 3月16日(水) 第5・6校時

○場所 体育館

○内容・方法

(1) 6年生入場(各小集団のサークルの中に入る。)

(2) 開会のことば(5年代表)

(3) 在校生代表あいさつ(児童会5年生)

(4) 校長先生のお話

(5) みんなで歌おう「手のひらを太陽に」

(6) 集団での出し物

① 歓送コール (運動会の応援合戦の要領で5年生がリーダーになりステージで応援のリードをする。他は自分の席でリーダーに合わせてコールや拍手をする。ステージには1, 2年生を上げてよい。)

A, B, Cの順に7分の制限時間で行う。

② ダンス (仲よし活動でやった曲名の中から行う。)

A, B, Cごとに話合って行う。

③ 歌 (各集団ごとに楽しく歌える曲を選んで歌う。)

(7) みんなでゲームをしよう。(チャンピオンゲームをする。)

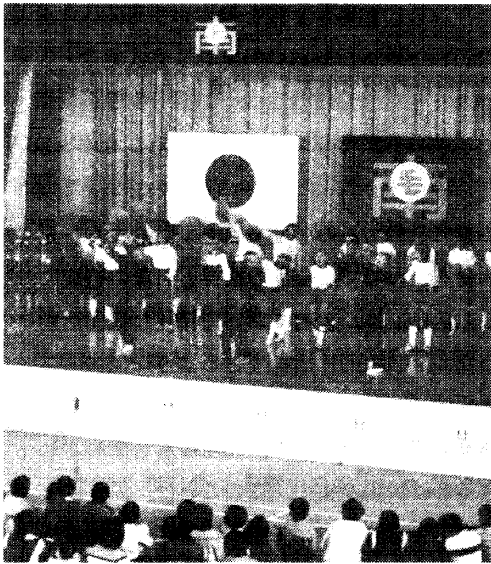
(8) みんなで歌おう (毛野南, 児童会の歌)

(9) プレゼント交換

① 手紙を渡す (A-1の1年生が代表して文面を読み, 手渡す時他の1年生が同時に各自のグループの6年生に手渡す。)

- ② 寄せ書きを贈る （各小集団ごとに6年生の本人を除いた寄せ書きを事前に作り、5年生から6年生に手渡す。）
- ③ しおりを贈る （6年生から5年生以下の全員に手作りのしおりを贈る。）
- (10) 小集団旗伝達 （仲よし活動で1年間使用した小旗を班長から5年の仮班長に伝達する。）
- (11) 6年生お礼のことはば （6年生代表）
- (12) みんなで歌おう 「きょうの日はさようなら」を全員で歌う。（ファイナーレ）
- (13) 閉会のことはば （5年生）
- (14) 6年生退場 （ほたるの光の曲で6年生を送る。在校生拍手。）

互いに1年間の活動を反省したり、1年間互いに行動をともにした仲間が6年生という先輩と別れるというさびしさ、特に「きょうだい活動」でマンツウマンで過した1年生と6年生はなおさらである。心をこめて書いた手紙を（口では表現できない感謝の気持ちを）手渡し、中学校へ行っても忘れないでと祈るような気持ちで別れを惜しんでいた。6年生が手作りで用意した「しおり」はひとり4～5枚になる。新年度から主教科の教科書にはさまれ利用されることであろう。そして、先輩の中学での活躍をいつも見守ることになると思う。



4. まとめ

昭和56年度からスタートした仲よし活動も2年を経過した。1年目は仲よし活動の意義や基本的な活動に対する職員の共通認識に力を入れ、テスト的な活動を行って来た。2年目は1年目の反省とその改善について十分話し合い、1年目の活動に目的をもたせ、事前の準備やリーダーの自覚を高めるための努力をして来た。4年前「たてわり活動」としてスタートしたこの活動は“清掃”だけであった。「たてわり活動」とは何か ということから見直し、“清掃”以外にこの組織の活用はないのか？という発想で仲よし活動という内容はどんなことがあるか。学校裁量の時間の活用との関連も考える。な

ど諸々の条件を考慮し、より楽しい学校生活の実現と実験学校としての研究主題との関連からも“自主的活動の場として、この仲よし活動が最適な発展活動であるという確信のもとに計画し、経験をもとに改善し、やや基本的パターンが定着化したことはたいへん喜ばしいことである。1年生のお母さんから電話でお礼があったり、直接訪問して両親の前でお礼をいわれた6年生がほとんどだという報告も聞くことができた。6年生は恥ずかしさと、満足感に快よいひとときを体験したことと思う。

昭和58年度もすでに一日入学で新6年生と新入生の“きょうだい活動”が行われており、4月の入学式に校門前で再会することを楽しみにしているという新入生の父母からの声も聞いている。

上級生は、学級会、児童会、クラブ、そして仲よし活動と様々な集団のリーダーとして学校生活の中で活躍するわけである。それぞれの集団のねらいを理解し、仲間としての人間関係をいかに高めて行くか、教師と相談したり、他のリーダーと相談したりして頑張ってもらいたいと思う。そして、毛野南小のよりよい発展と校風づくりに努力してほしい。仲よし活動も3年目を迎える。今年は仲よし活動の充実が期待される。今年は、きょうだい活動を1年と6年、2年と4年、3年と5年というマンツウマンを編成することにした。また、昨年の小集団のメンバーは変更しないで、そのまま継続し、1年生だけが新加入するというようにした。1年間でいろいろな問題が生まれているが、その解決の方策を研究することが今後の課題である。

評

児童活動の特質の一つは、集団とのかかわりをもつ教育活動であるということであります。児童は、所属する集団において、自己の役割を果たす活動をとおして、集団の維持と目標の達成に貢献することができます。本校で実践している「仲よし活動」は、校内において様々な集団活動の機会と場を求め、児童の発達段階に応じて役割を自覚し、自主的に活動できるように工夫しております。中でも、たてわりによる各種の集いは、上級生に先輩であるという意識と自覚をもたせ、下級生には、学級では味わえない異質集団の体験をさせるとともに、相互理解を深めさせることにより集団への所属感を高めることが期待できるわけであります。このことは、児童にとって学校生活が楽しい、潤いのあるものとなり、充実感も生まれ、やがて集団に寄与する態度も育ってくるものと思います。

今後の課題として、この種の活動は、ともすると惰性に流れる可能性もありますので、それを避けるため、児童の発意・発想をどこで生かせるかを検討する必要があると思います。